

Vol.81

2010年 9月号

ぐらぶあ

ふみだそう、福祉でまちづくり

出前福祉教室



後日、実際にガイドしながら小平さんのお宅へ伺いました。



音や手の感覚だけでお茶を注ぐのは難しいね。



聞こえない人に伝えるにはどうしたらいいかみんなで考えました。



今日はいろいろ教えてくれてありがとうございました。

じゃがいもの花

茅野市社協では、「福祉の心」や「共に生きる力(知恵)」を育み豊かな地域づくりにつなげるために、福祉教育・学習の推進支援に取り組んでいます。中でも「福祉教室」は、子どもたちを主な対象として行われています。

泉野小学校では、「福祉教室」に毎年全校で取り組んでいます。この日は、聴覚障害者や手話通訳の方々を外部講師に、手話体験やレクリエーションをとおして交流を深めました。子どもたちは、「聞こえない状態で交流を深めるにはどうしたらいいか」など事前準備にも知恵を出し合っていました。

湖東小学校では、総合的な学習の時間の中に位置づいている、わくわく講座の活動の一つとして「ボランティア講座」が行われています。7月には、地域に暮らす視覚障害者の方との交流を行いました。点字をとおして交流したり、アイマスクをとおして「目が見えないということ」を体験したり、講師のお宅を訪問し、実際の生活を見せていただきました。

子どもたちと障害者の方との交流では、何でも普通にこなしてしまふ様子に子どもたちの誰もが「驚き」の声をあげます。そして、すぐに打ち解けることができます。登下校の際に道で会っても気軽に声をかけてくれると講師の方も話していました。子どもたちも心の中にまかれた小さな種がしっかりと根付き地域づくりにつながることを願っています。

平成22年度 福祉教育・ボランティア学習研修会

去る8月9日(月)に、茅野市役所8階大ホールにおいて「福祉教育・ボランティア学習研修会」が開かれました。

毎年開催されている研修会ですが、今年は、小・中学校から福祉教育担当の先生だけでなく、校長先生をはじめ多くの先生方に参加していただきました。また、社協が実施する出前福祉教室で講師をしてくださる方や民生児童委員、ボランティア活動に取り組む方など、地域で子どもを育む方々とともに、福祉教育の意義について共通の認識を持ち情報交換の場として位置づけられました。



福祉教育とは…

福祉教育は、「心」を育てる教育です。
人権を尊重すること、他人を思いやることの意味を学び、自分自身を見つめ直し、「いのち」とは何かを考えながら、生きる力を養っていくための様々な取り組み・実践です。

◎福祉21福祉教育・学習部会からの報告

福祉教育・学習部会会長 長田 孝さん

茅野市には「茅野市民プラン」の基に、福祉分野に関して「福祉21ビーンズプラン」があります。その中の専門部会「福祉教育・学習部会」では、福祉教育について「子どもころから地域の支えあいや共に生きる力をどう育てていくか」「学校、地域、家庭が協同して福祉教育を推し進めていく必要性」「子どもたちの活力は地域づくりにも繋がるのではないか」などの意見が出されました。

そして、第1次福祉21ビーンズプランを検証し、「子どものときから福祉教育を生涯学習として体系的に進めるために、学校における福祉教育も含めた（仮称）生涯福祉学習推進会議を早急に設置し、各課題に取り組むことにする」という提案がされました。

◎シンポジウム

- | | |
|----------|--|
| テーマ | 「自立と共生をめざした学びの創造」
～「いのちのきずな」づくりをめざした「ふくし教育」を核として～ |
| シンポジスト | 松山 智美さん（愛知県東浦町片葩小学校教諭）
鈴木 涼子さん（愛知県東浦町社会福祉協議会） |
| コーディネーター | 原田正樹さん（日本福祉大学社会福祉学部准教授） |

かたは 片葩小学校の紹介

片葩小学校では、「いのちの大切さ」の視点から1～6年生の各学年で福祉教育の実践を行っています。学校が重視したい福祉教育の課題に対して町社協が地域の情報(人材・団体・施設など)を提供およびコーディネートし、地域に暮らす人たちが年間200人以上ゲストティーチャーとして関わっていきます。まさに、学校・地域・社協が共同して実践を展開しています。

片葩小学校で行われている実践の特徴

・総合的な学習のねらい「共に生きる」

とかく、総合や道徳の授業の中でのみ扱われそうだが、国語、社会、音楽など様々な教科の中でも「共に生きる」が貫かれている。

・「福祉教育」ではなく「ふくし教育」

「ふくし」とは、「ふだんのくらしをしあわせに」ということ。単に技術を教える福祉実践教育では、「かわいそう感」しか持てない。手話や点字だけを学ぶより、それを必要とする人に着目し関わり方を学ぶことで、地域で暮らす様々な人との交流が生まれる。

・地域で暮らす人たちが「ゲストティーチャー（外部講師）」

地域住民が、年間200人以上のゲストティーチャーとして子どもたちとかかわりを持つということは、学校以外でも子どもを見守る目が増えるということ。子どもたちの活動も広がり、学校と地域がパートナーとなって動くことができるようになる。

・授業づくりのパートナーとしての社会福祉協議会

活動当初、学校側には社協に対して「高齢者、障がい者に携わるところ」「福祉実践教室の段取りをしてくれるところ」というイメージがあったため、学校という組織の中に社協が入っていくことは、かなり難しい面があった。しかし、枠組みを変えずに学校と社協の思いを重ね、歩み寄ることで、今では共同して学習を組み立てられるようになった。

参加者の声

確かに、学校と地域はあまり繋がっていないと感じます。今年は御柱で地域ごとに小宮祭が行われますが、学校としてのかかわりは具体的に見当たらず、地域で小宮の準備を進め、学校は独自で御柱の学習を行おうとしているような気がします。結局は『この地域を心豊かな子どもでいっぱいになりたい』という熱意を持つことが大切だと教えられた気がします。そして、教師自身が地域に入って協力を推し進める必要があると教えられました。

片葩小学校でやられたように、地域に根ざした実践を展開できたら良いと思います。今まではアイマスク体験だけで終わっていて、それが必要な人やその人の生活に着目したことがなかったので、障害のある方は「特別」という思いが生徒の中に残ってしまったのかなと思います。人や生活を知ることによって「自分たちと何ら変わらない人なんだ」と思えるような実践が必要だと思いました。

インフォメーション

左記のほかたくさんの感想が寄せられ、参加者の関心の強さを感じました。そこで、次号（11月号）で片葩小学校5年生の具体的な取り組みについて紹介します。



まとめ

社協では毎年2月に福祉担当の先生方を主な対象として、福祉教育の研修会を開催してきました。今回は、茅野市の福祉教育が新たな第一歩を踏み出すためには、校長先生を始め、より多くの先生方に全国的にも先進的な取り組み事例を知っていただくことが必要ではないかと考え、第2次ビーンズプランの策定機会に合わせて開催しました。

この研修会で、社協と学校の信頼関係の重要性を再認識すると共に、学校や地域から信頼される社協でなければ、福祉教育を進めていくことはできないと痛感しています。

更生保護女性会の活動をご存知ですか

私たち茅野市更生保護女性会は明るい地域社会を実現しようと、更生保護に協力する活動をしている女性ボランティアの団体です。歴史は明治大正までさかのぼりますが、戦後は荒廃した社会の中で女性の持つ優しさと温かさによって青少年を守ろうとする活動の輪が、女性保護司、保護司夫人、PTA役員、女性民生委員、婦人会等の呼びかけによって広がり、昭和39年には全国組織が結成されました。茅野市は1959年に設立され50年を数えています。現在250人以上の会員が活動しています。

「更生保護」とは非行や犯罪に陥った人たちが、再び社会の一員として立ち直るのを助けようという制度です。そして、様々な支援によって多くの人たちが立ち直っています。地域に活動の基盤を持つ更生保護女性会は、更生保護への理解と協力を得るための運動を展開しつつ、広く社会の方々に更生保護の心を伝え、地域に更生保護の土壌を創りあげるために活動をしています。また、立ち直りの支援とともに、次世代を担う青少年の健やかな成長を願って、非行防止、健全育成、並びに地域の子育て支援を、関係団体と連携しながら活動をしています。

茅野市更生保護女性会の主な活動

◎更生保護活動に関する研修

- ・ 県更生保護女性連盟研修会 ・ ミニ集会（地区会） ・ 保護司との合同研修会 ミニ集会
- ・ 保護司との県外視察研修

◎健全育成・非行防止活動

- ・ 街頭啓発（振り込め詐欺防止未然防止活動 社会を明るくする運動 ゲームセンター見回り等）
- ・ 薬物防止対策（市内中学生対象として薬物乱用防止活動）

◎茅野防犯協会連合会防犯女性部としての防犯活動

◎更生保護施設激励訪問（長野裾花寮 松本みすず寮等）

◎子育て支援の協力

- ・ 遊びの広場（未就園児の親子の集い 月1回）
- ・ ピーナッツ（双子ちゃん集い 月2回）

◎裁判の傍聴

◎茅野市女性団体連絡協議会への参加

◎更生保護女性会機関紙発行



一緒に活動できる方、入会をお待ちしております。市地域福祉推進課へお問い合わせください。



八月の六日（広島）と九日（長崎）は世界平和を祈り、十三日～十六日（お盆）は、ご先祖様を祈った。人はひとりでは生きられない。多くの先祖を縁とし、自然の恩恵を受け、先生や友達、社会で働く世界中の人に支えられている。

「福田四十五号」に掲載の山田無文師の詩を紹介します。

おかげさま

お父さんお母さんのおかげです
やさしい先生のおかげです
友達みんなのおかげさま
社会ではたらくみなさまのおかげさ
ます

ありがとう

お米ややさいのおかげやら
着物やおくつのおかげです

友達みんなのおかげさま

社会ではたらくみなさまのおかげさ
ます

ありがとう

世界のみんなのおかげです

私とあなたのおかげさま

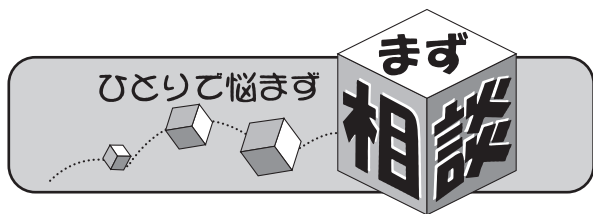
友達みんなのおかげさま

世界中にひろめよう

おかげさまをひろげよう

「おかげさま」まさに万物に感謝する素直で謙虚な心が大切。

*福田（諏訪仏教福田会の機関紙）



人生には様々な悩みがあります。だれにも相談できない、どこに相談したらよいかわからない。そんなときは、まず社協にお電話ください。

心配ごと相談

どんなことでもご相談ください

毎週金曜日 午前9時～正午

相談員：心配ごと相談員

心の悩み相談には、事前の予約が必要です。

(カウンセラー、精神保健福祉士が対応)

結婚相談

結婚を望まれる方の相談窓口

毎月第1・3土曜日

午後1時～午後4時

第2・4金曜日

午後6時30分～午後8時30分

相談員：結婚相談員

司法書士の法律相談（予約制）

身近な法律に関する相談

毎月第2水曜日 午後3時～午後5時

相談員：司法書士 予約電話／73-4431

あなたと家族の悩み相談 ～家族のサポートライン～

ご家族を亡くされた方、病気に直面されている方
ご相談ください

毎月第1・3月曜日 午後2時～午後4時

相談員：ボランティア

直通電話／82-0400

福祉やボランティアについての相談

月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時30分

電話／73-4431 FAX／73-8030

相談は、総合福祉センター3階の相談室
または1階の社協事務所までお越しください

社協情報紙 **やらざあ** Vol.81
2010年 9月号

2010年9月1日

発行／社会福祉法人 茅野市社会福祉協議会

編集／やらざあ編集委員会

〒391-0002 茅野市塚原2-5-45

TEL (0266) 73-4431

FAX (0266) 73-8030

URL: <http://sharara.or.jp>

E-mail: support@sharara.or.jp

ありがとうございました

～シャララほっとサービス 新規協力会員募集 & 説明会開催～

社協では、先にシャララほっとサービスの中の子育て支援のお手伝いをしてくださる方を募集したところ、男性をはじめ子育て中の女性からお孫さんのいる方まで幅広い年齢層の方々が説明会に参加してくださいました。困っている方、手助けを必要としている方の役に立ちたいと、福祉に関心を持つ方がこんなにも大勢いらっしゃることに、力づけられる思いがします。

お互いに助けたり助けられたりの、心豊かなまちづくりへの担い手が増えたことに感謝いたします。

今月は

クイズ

漢字クイズ



四季を表わす「春」「夏」「秋」「冬」を使って、右行の①と組み合わせて漢字を作ってください。

- | | |
|-----|---------|
| ① 春 | ㊦ 木ヘン |
| ② 夏 | ㊩ 糸ヘン |
| ③ 秋 | ㊵ 草カンムリ |
| ④ 冬 | ㊿ 魚ヘン |

応募要領

クイズの答え、住所、氏名、年齢（年代）、電話番号に社協へのご意見、ご要望、やらざあのご感想、つぶやきなど一言添えて社協までお送り下さい。正解者の中から抽選で3名の方に図書カードを差し上げます。

応募締め切り

9月末日

前回のクイズの答え

イ：5月 □：3月 ハ：1月 ニ：12月 ホ：2月

ヘ：4月 ト：11月 チ：7月 リ：9月 ヌ：10月

当選者

佐藤隆治さん（泉野） 高橋英二さん（玉川）

神津悠子さん（玉川）

当選された方には図書カードをお送りいたします。たくさんのご応募ありがとうございました。



社協情報紙 **やらざあ** の発行にはみなさんの会費が使われています。